

伝統の技 手づくり缶

時代は大量生産を求め、さらに「人の手を省く」方向へと進んできています。製缶業界においても機械化により飛躍的に省力化が進んできました。その一方で、「手づくり缶」は文字通り職人により大正時代からの伝来の技が継承され、今もつくられ続けています。人の手で1缶ずつ丁寧につくられた「手づくり缶」は“もったいない”“捨てられない”。美術的にも優れていて、大切に扱われる大きな要因になっているのです。



- 手づくり・その1** 胴体の接合部は、長年半田付けでしたが、現在は鉛を使わないカシメ、溶接のいずれかで行っています。
- 今も中蓋はツマミ部分を含めブリキを採用しています。
(PPポリ素材の中蓋もありますが頑固にこだわります)
 - 胴体の縁部は内カール、蓋の縁部も特殊なカールです。



- 手づくり・その2** 小ロットに適し、様々なサイズが手づくり缶ならできます。
- 丸缶には小ロットの需要に合わせてオリジナルデザインを和紙貼り、塗り加工(蒔絵)やシルクスクリーンなどで対応しています。

手づくり・その3 世界へジャポニズムを広げます。

- 日本の良さは海外で多分野にわり認められています。
- 暖かみのある手づくり缶を、今まさに世界へ飛び出そうと頑張って販売を始めました。
- 伝統を守るだけでなく、少しばかりアレンジが必要ですが丹精込めてつくることで、“愛される”“捨てられない”缶となるでしょう。



協力／(株)江東堂高橋製作所

平成26年1月1日

一般缶の良さ・楽しさを発信します
全日本一般缶工業団体連合会 優CANレポート 第40号